

《 資 料 》

壺屋焼物博物館展示基本設計〈報告書〉平成6年度

壺屋焼物博物館展示基本設計〈報告書〉

平成6年度

那覇市教育委員会
株式会社乃村工藝社

目次

■ 事業計画

壺屋焼物博物館の性格	1
壺屋焼物博物館の事業方針	3
壺屋焼物博物館の事業内容	4

■ 展示計画／全体概要

展示計画の考え方	10
展示ストーリー	12
展示の内容と展開	13
展示構成リスト	15
ゾーニング及び動線図	24
イメージスケッチ	26

■ 展示計画／ゾーン展開

焼物前史／平面図・立面図・断面図	27
焼物前史／ゾーンスケッチ	28
焼物前史の展示展開	29
壺屋焼の歴史／平面図	31
壺屋焼の歴史／立面図・断面図	32
壺屋焼の歴史／ゾーンスケッチ	33
壺屋焼の歴史の展示展開	34
生活の中の壺屋焼／平面図・立面図	37
生活の中の壺屋焼／立面図	38
生活の中の壺屋焼／ゾーンスケッチ	39
生活の中の壺屋焼の展示展開	40

壺屋焼・その特徴／平面図・立面図・断面図	44
壺屋焼・その特徴／平面図	45
壺屋焼・その特徴／立面図・断面図	46
壺屋焼・その特徴／ゾーンスケッチ	47
壺屋焼・その特徴／展示展開	48
解説計画の考え方	52

■ 展示計画／企画展示室

平面図・立面図・断面図	54
企画展示室のレイアウト例	55

■ コンピュータシステム計画

博物館における情報システムの必要性	56
収蔵品管理システム	57
地域情報提供システム	68

■ 館内インフォメーションの考え方

館内インフォメーションの必要性和内容	71
--------------------	----

■ 運営計画

運営形態と組織体制	72
-----------	----

■ 今後の課題

今後の課題	73
-------	----

最近の博物館の動向や、現在の壺屋における現状と課題をふまえた上で、今壺屋ではどのような博物館が求められているのかを、4つの視点から考えます。

1. 文化観光の視点

●壺屋にふさわしいテーマ博物館

古くから沖縄陶業の中心地として栄えた壺屋において、その個性豊かな地域性や沖縄独特の美意識を反映させた博物館をめざす。

●那覇市の新しい観光ポイントとしての博物館

那覇市の上位計画「グランドバザール那覇」の主要構成事業として、壺屋地区をより強くアピールし、那覇市に新たな魅力を加える。

●地域振興の拠点としての博物館

壺屋地区のまちづくりや文化活動・商店街活動との密接な連携を図り、那覇市がすすめる『ヤチムンの里づくり』の中核施設と位置づける。

●エコミュージアムとしての博物館

博物館内だけでなく壺屋地区そのものを博物館と位置づける。古い石垣や伝統的な沖縄風家屋、拝所や古井戸などを壺屋固有の歴史的文化遺産と捉え、また周辺工房等でも展示や演示を行い、それらを繋ぐ散策ルートを設定する。

2. 地域コミュニティ形成の視点

●生涯学習の機会と場を提供する博物館

市民に学習の機会や場を提供し、継続的な利用がなされるよう、学習情報の提供やセミナー・講座等を開催するなど、生涯学習に対する市民の要求を充足する。

●人と人のコミュニケーションの場としての博物館

窯業関係者と一般生活者の共生する壺屋地区において、作家と市民、また市民相互の交流を図るなど、多様なコミュニケーションの形成を目指す。

●文化財保護の拠点としての博物館

敷地に隣接する『フェーナカマ』をはじめ、壺屋固有の文化財を保護していくための拠点とし、壺屋の持つ歴史的・文化的重要性を再発掘し、市民共通の精神基盤の形成に寄与する。

3. 国際化の視点

●国際的な文化交流を図る博物館

壺屋焼をはじめ多くの影響を受けたアジア諸国の焼物等をも取り込み、魅力ある研究や展示を展開し、その成果をもとに国際的な交流を深める。

●中国・台湾・韓国へ国際的に開かれた博物館

中国・台湾・韓国から沖縄への観光客は今後さらに増加するものと思われる。それら海外からの観光客を対象とした解説計画やサービスを整え、グローバルな視野に立って情報を発信する博物館である。

4. 陶磁史研究の視点

●焼物の『シンクタンク』としての博物館

沖縄・壺屋の焼物に関する資料を収集・保管し、調査・研究を深め、専門的な情報を蓄積することで地域振興にも寄与できる『シンクタンク』機能を目指す。

●専門家を育成する博物館

館独自の調査・研究を反映させた企画展示や各種講座を通し、壺屋焼きの伝統を伝え、優れた技法の保存・継承を図る。

●新たな生活文化を創造する博物館

一般市民を研究や館の活動に加えるなど、市民自らが参加し、体験していくことで、より豊かな生活文化を創造していくための拠点とする。

●集客を重視する博物館

沖縄・那覇市の新しい観光ポイントとして、また、壺屋地区へより多くの人々を誘致するための拠点としての施設を目指す。

「焼物」にテーマを絞り、沖縄の美意識「琉球の富」に訴える博物館とする。

●普及活動を重視する博物館

多くの人に足を運んでもらう博物館とするために、学習交流活動やイベント活動などの普及活動にも力を注ぐものとする。

博物館のリピーターの多くが、企画展示（特別展示）や学習講座への参加による来館であることを考慮し、壺屋焼物博物館でもこうした普及活動を重視していく。

また、ニューメディアを活用した普及活動なども取り入れるものとする。

●館外に広がる活動の場

壺屋地区内の文化財や歴史的な施設、また、周辺の陶芸店や工房などを活用した事業展開を図る。

壺屋焼物博物館の建物内だけが博物館活動の場ではない、という考え方に立ち、館の外に積極的に飛びだしていく活動を目指す。

●人材育成の循環システム

展示や普及活動を入口に壺屋焼物博物館と接した利用者が、それぞれの年齢や興味の対象、学習の深度などに応じて、初歩的なレベルから専門的な学習まで次第に高度な段階へ進むことができる事業活動を用意する。

学習交流活動における多彩なプログラムの用意とともに、学習プログラムの段階を経た人たちの学習指導員や解説員等への登用、さらに調査研究への参加など、館の活動を通して自由に学び、新しい課題を発見し、その成果を身に付け、さらにそれを還元していくという人材育成の循環システムの構築を目指す。

●調査・研究活動に積極的に取り組む博物館

陶磁器の調査・研究を行い、壺屋焼のバックグラウンドを明らかにすることによって、将来へ向けてのデザイン性や芸術性などの可能性を広げる。

壺屋焼物博物館は、他の機関や周辺の関連施設と館の事業の内容を分担することで相乗効果を狙うとともに、街ぐるみの活動を図ります。

●・・・活動の中心 ○・・・活動に積極的に参加 △・・・活動に協力 組合＝壺屋陶器事業共同組合

事業内容	壺屋焼物博物館	伝統工芸館	観光・商工課	都市計画室	周辺商店	周辺工房	町民会館・組合	市民ボランティア
基本事業	調査研究活動	●						
	収集・保存活動	●						
	常設展示活動	● (歴史)	● (現代)		△	○	○	
	体験学習	△	○			○	△	△
	情報提供活動	●	●	●		△	△	△
集客事業	文化学習交流活動	●	○	△		△	△	△
	企画展示活動	●	●	△		△	△	△
	イベント・催事活動	△	○	●		○	○	△
	関連施設との連携活動	○	○	●	△	△		
広報事業	対外PR活動	○	●	●		○	△	
	マスメディアや企業とのタイアップ活動	△	●	●		△	△	
	旅行代理店への対応活動	△	●	●				
サービス事業	エコミュージアム活動	●			○	△	○	○
	利用者の多様性に応じたサービス活動	●			○	○	△	△
	飲食サービス活動	△				●		
	ミュージアムショップ活動	△	○				○	●

基本事業

●調査研究活動

- 文化財の復元と調査・研究
 - ・フェーヌ窯活用に向けての調査・研究
 - ・湧田窯復元に向けての調査・研究 等
- 荒焼・上焼の調査・研究
 - ・発掘資料の分析・研究
 - ・製法・技法等の調査・研究 等
- 壺屋地区の郷土史の調査・研究
- 壺屋地区の民俗・文化の調査・研究
- 壺屋焼物博物館における学習プログラムの調査・研究
- 沖縄の焼物全般に関する調査・研究 等

●収集・保存活動

- 収集活動
 - ・範囲：壺屋焼、沖縄の焼物、及びそれらに影響を与えた焼物等に関するもの
 - ・対象：実物資料、写真、フィルム、テープ、ディスク等の映像、図書、雑誌 等
 - ・収集方法：購入、受領、受託、制作、借入れ、交換 等

○保存活動

- ・保存のための条件整備
(収蔵庫の温度、湿度、防虫、紫外線による褪色防止 等)
- ・資料の保管・管理 —— データベースの構築
(コンピュータの導入、他館とのネットワーク化 等)

●常設展示活動

- メイン展示
 - ・壺屋焼の魅力、実物、模型、映像等を駆使して紹介
- 屋外展示
 - ①敷地内・・・イベント広場、シンボルモニュメント、西の宮 等
 - ②敷地外・・・フェーヌ窯 等
 - ③散策ルート内展示・・・文化財や景観の案内サイン・解説、周辺工房での個別展示 等
- 移動展示
 - ・パッケージ化した展示ユニットを公立の施設（学校など）に運びこんで展示する。

●体験学習

- 周辺工房での講座との連携により、市民の壺屋焼への理解と関心を深めるための体験学習ができる機会を提供する。
- 伝統工芸館において行っている陶芸講座を紹介し、壺屋焼物博物館においても申込み受付を行うなど連携活動を行う。

●情報提供活動

- 収蔵資料情報システムの構築
- 壺屋焼に関する情報提供
- インフォメーションサービスシステムの構築
 - ・散策ルート内展示物の案内情報
 - ・国内の焼物に関する情報
 - ・世界の焼物に関する情報
 - ・壺屋のイベント情報
 - ・沖縄の観光情報 等
- 各種検索装置の更新・追加
- 他施設・他機関とのネットワークづくり
- 伝統工芸館の体験工房の情報
- 周辺飲食物販店の情報

集客事業

●文化学習交流活動

- 各種セミナー、講演会、シンポジウム等の開催
- CATV、パソコン通信等ニューメディアによる学習講座
- 出版活動
- ボランティアの育成と活用
- 学校教育との連携 等

●企画展示活動

- 自主企画による展示
- 他の機関との共催による展示
- 他機関による企画展示（巡回展示）の受入れ
- 市民へのスペースの貸出し 等

●イベント・催事活動

- 壺屋地区内スタンプラリー
- 各種コンサート（場の提供）
- パフォーマンス、演劇（場の提供）
- インスタレーション（場の提供）
- 観光・商工課とのタイ・アップ活動
（マチグワーフェスティバル 等）
- 那覇市の記念事業・季節のテーマに沿った催事
（場の提供） 等

●関連施設との連携活動

- 関連する博物館との共同イベントの企画・運営
- 観光文化関連施設との共通カードの発行
- 壺屋焼物博物館を核とした壺屋地区散策コースの設定（工房見学・関連展示など） 等

広報事業

●対外PR活動

- 広報デスクの設置
 - ・対外PR計画の作成など、PR活動を統括しスケジュール管理する専門部署
- 効果的なメディアの選択
 - ・新聞各紙
 - ・専門誌
 - ・週刊誌・月刊誌
 - ・イベント情報誌
 - ・文化関係のライター
 - ・テレビ・ラジオ 等
- メディアへの提供資料の作成
 - ・定期的なニュースリリース
 - ・イベントに合わせたポスターの作成
 - ・チラシ等の作成・配付 等

●マスメディアや企業とのタイアップ活動

- マスメディアとのタイアップ活動
- 企業・団体のメセナ活動の取り込み
- 市場・商店街とのタイアップ活動 等

●旅行代理店への対応活動

- （商工・観光課への協力要請）
- 新たな観光ルートの開発と設定
- 観光用パンフレットの制作・配付 等

サービス事業

●エコミュージアム活動

- 周辺工房との連携活動
- 周辺工房や個人宅などへの展示ケースの貸出し・設置
- 環境との調和のとれた分かりやすいサインの設置
- ルートマップの配付 等

●利用者の多様性に応じたサービス活動

(施設面)

- クローク・コインロッカー等の設置
- 授乳室の設置
- 高齢者・身障者対策 等

(運営面)

- 夜間開館の検討(季節・曜日限定) 等

●飲食サービス活動

(近隣の飲食店での活動)

- 沖縄の食生活と共に発達した壺屋焼を、実際に手に触れ、使用させることでのアピール
- 地元住民への憩いの場の提供 等

●ミュージアムショップ活動

(近隣販売店での活動)

- オリジナルグッズの開発・販売への協力
- 他施設との共同商品開発・販売への協力
- 焼物に関する図書の出版・販売への協力
- フィルムやテレホンカード等の一般的な商品の販売 等

展示計画の考え方

企画の考え方

●『ヤチムンの里づくり』のコアとして

壺屋焼の全体像を把握できる展示 → 分かりやすく立体的なテーマ構成

壺屋焼を語るためには、時代的変遷、人々の生活との結びつき、製品自体の多彩な種類や特徴、技法など多くの側面にふれる必要がある。専門的な情報に偏ることなく、こうした多様な情報を、分かりやすくテーマ立てし、立体的に構成してその全体像を紹介する。

●壺屋焼を通して地域の文化を見直し活用する展示

→ 地域との連携、地域への広がり意識する

地域独自のテーマである壺屋焼を通して地域の歴史・文化を再確認し活用することを目指す。展示においても、散策ルートや地域の文化財、サテライトとしての地域の工房の公開や展示の紹介など、地域への誘いを積極的に取り入れていく。

●壺屋焼のポテンシャル(潜在力)を示す

刺激にあふれた展示 → 壺屋焼の美(すばらしさ)を堪能できる場の創出

柳宗悦に「日本中の伝統的な窯場としては第一に推すべきもの」といわれ、民芸運動にも影響を与えた壺屋焼の持つ魅力を存分に堪能できるよう配慮する。優品についてはその美をそのままに伝え、一般来館者とともに現代の作り手にも刺激となることを期待する。

●観光客など、予備知識のない来館者も引きつけ

楽しみながら理解を深める展示 → 見る・聞く・触れるプラス空間全体を情報化した体感性あふれる展開

那覇市の新しい観光ポイントとなる博物館として、ストーリー性を加味し、空間自体から情報発信していく話題性のある展示演出にも留意する。見る、聞くプラスアルファの体感性のある要素で、楽しみながら理解を促す展示を工夫する。

●ゾーンごとに表情を変えるドラマチックな空間づくり

・1階 —— 『時代の小道』を抜けて昭和10年代の民家の裏庭に至るストーリー性のある展開

・吹き抜け—民家の再現がつながり1階から2階への視点の変化とテーマの変化

・2階 —— 焼物が主役となる静的な空間演出

1階展示室で展開されるテーマ「歴史」と「生活」を空間的にも表現していく。歴史の軸に沿った動線をスーパージグワーに見立て、導入部と民家再現の場を結び構成とする。細い小道と広場的な空間の組み合わせにより空間的な変化を演出し、さらにそこには、現代から太古へとタイムスリップした来館者が、時代を通り抜けて昭和10年代の民家の裏庭に出るというドラマ性が組み込まれている。

1階と2階を結ぶ吹き抜け空間を効果的に活用し、屋根部も含めた民家の再現を行う。階段を登る視点の変化とともに、民家内部の生活の視点から、シーサーや瓦を含めた「壺屋焼の特徴」へとテーマも変化する。

壺屋焼そのものをじっくりと鑑賞できるギャラリー的な空間とし、個々の焼物が主役となる静的な空間づくりを目指す。

●壺屋焼の美が映える空間づくり

・壺屋焼独特の色彩・質感をありのままに見せる

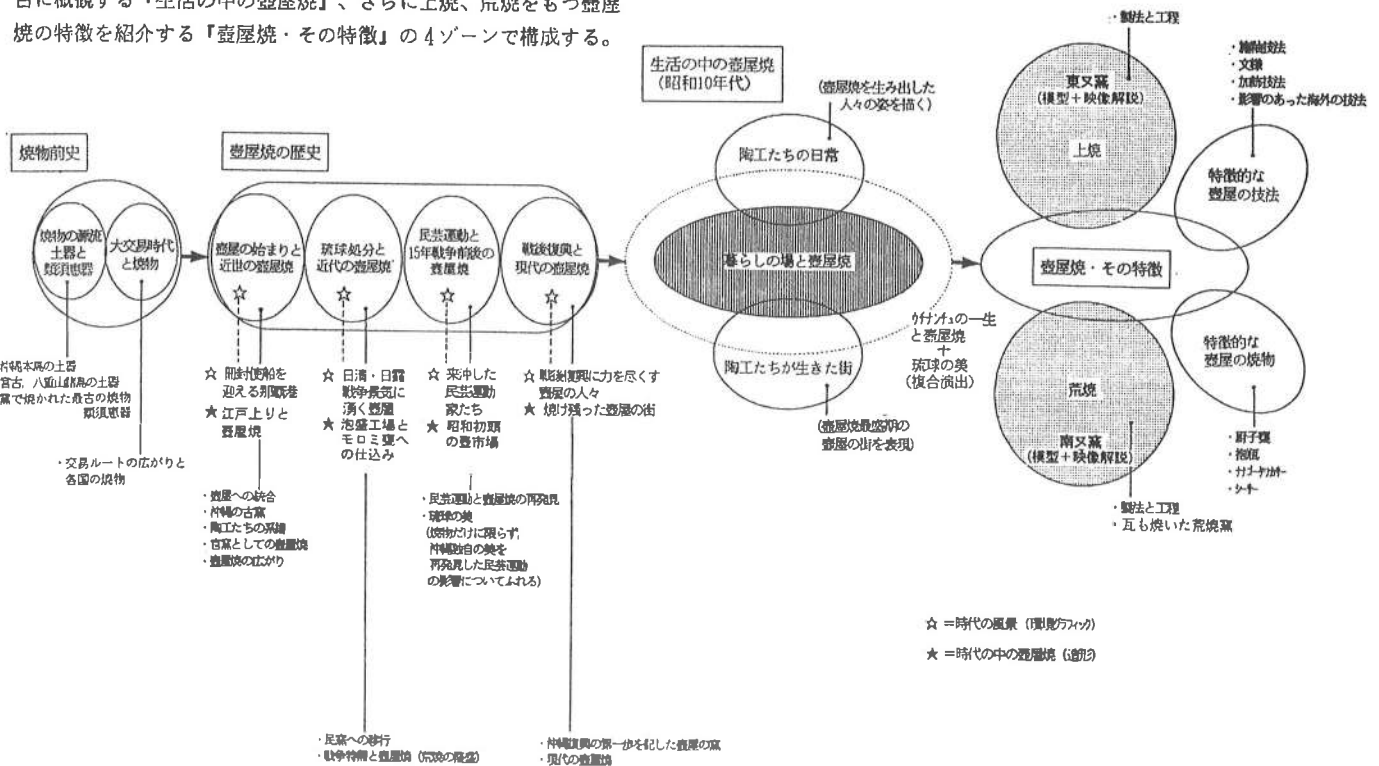
壺屋焼独特の色彩や質感、形体の特異性等を最大限に引き出し、おろかかで温かみのあるその“美”をありのままに感じることができるよう、ステージやケースなど展示仕器の素材や質感、色彩、そして照明計画にも意を払った空間づくりを目指す。

●沖縄の空気を感じさせる空間づくり

・素材と色彩で沖縄らしさを表現する

民芸運動の端緒ともなった壺屋焼とともに、沖縄には「琉球の富」と称された優れた美術工芸の伝統がある。染色、織物、漆芸など、沖縄の独特の自然風土と歴史的個性のなかで生み出されてきた美術工芸のモチーフを空間構成に反映し、その素材や色彩を活かして、沖縄の空気を感じさせる空間づくりを試みる。

歴史という時間軸に沿ったテーマ展開と、生活という空間軸の設定によるテーマ展開で構成する。焼物の源としての土器から大交易時代の海外の焼物との接触までの「焼物前史」、壺屋統合以降陶芸三人展頃までの壺屋焼の歩みをエポックとなる事象とともに四つの時代に区分してたどる「壺屋焼の歴史」、そして、沖縄の人々と壺屋焼の深い繋がり、民芸運動で壺屋焼が再評価された昭和10年代を舞台に概観する「生活の中の壺屋焼」、さらに上焼、荒焼をもつ壺屋焼の特徴を紹介する「壺屋焼・その特徴」の4ゾーンで構成する。



ゾ ー ン	コ ー ナ ー	展 示 内 容	特 徴 と な る 展 示 展 開
焼物前史	焼物の源流 土器と類須恵器	焼物の源流としての土器及び沖縄の焼物の原形態である類須恵器について紹介する。九州の影響の強い沖縄諸島の土器、台湾やフィリピン等南方の影響が強い宮古・八重山諸島の土器、また、土器と同じ焼成法で焼かれるバナリ焼についてもふれる。	・各時代、各地域の特徴を示す見学用の実物ケース展示と、来館者が実際に手を触れられる「レプリカ」による展示を用意する。
	大交易時代と焼物	大交易時代の交易ルートや交易品についてその特徴を解説、活発な諸外国との交流に伴い沖縄にもたらされたさまざまな焼物を紹介し、その後の沖縄の焼物に与えた影響を示唆する。	・交易ルートの広がりと共にそれに伴う各国の焼物との接触の広がりを示すため、ルートを表示するグラフィックと解説、沖縄に渡ってきた焼物実物を組み合わせて立体的に展示する。
壺屋焼の歴史	——	壺屋焼の歴史を「壺屋の始まりと近世の壺屋焼」「琉球処分と近代の壺屋焼」「民芸運動と15年戦争前後の壺屋焼」「戦後復興と現代の壺屋焼」の四つの時代に大きく分類し、時代ごとのエポックと壺屋焼にかかわる人々など、関連情報を絡めながら今日に至る壺屋焼の道のりを紹介する。	・各時代ごとの壺屋焼を語るにふさわしい特徴的な事項を取り上げ、「時代の中の壺屋焼」の存在を示すミニジオラマをコーナーの導入として据え、「時代の風景」を捉えた環境演出性の高い大型のグラフィック（環境グラフィック）をコーナーの背景として、来館者の興味を引きつける役割を果たす。
	壺屋の始まりと 近世の壺屋焼	17世紀末、三つの窯（知花、宝口、湧田）の統合によって壺屋焼が誕生した背景、官窯としての性格などその特徴、壺屋焼の振興に尽くした陶工たちなど関連情報を伝える。三つの窯以外の沖縄の古窯についてもふれる。	・「冊封使船入港で賑わう那覇港の図」を環境グラフィックとして展開する。 ・泡盛を献上品として携えた「江戸上り」をミニジオラマで再現する。
	琉球処分と 近代の壺屋焼	琉球処分により沖縄の日本への帰属が確定したことで、壺屋焼にも変化の波が押し寄せる。民窯への移行、陶器商人たちの来島と上焼への影響、日清・日露戦争特需と荒焼など、時代の流れの中での壺屋焼の足跡をたどる。	・「日清・日露戦争で湧く壺屋」の町の様子を当時の風俗を交えた環境グラフィックで展開。 ・繁栄を極めた泡盛工場の、モロミ甕の並ぶ壮観をミニジオラマで再現する。
	民芸運動と15年戦争 前後の壺屋焼	壺屋焼再評価のきっかけとなった民芸運動に焦点をあて、柳宗悦、浜田庄司ら沖縄にやってきた民芸運動家たちの壺屋焼についての評価を紹介する。また、壺屋焼を中心としながら、工芸王国沖縄に生まれた、漆器、染織など琉球の珠玉の美についても概観する。	・柳宗悦、浜田庄司、バーナード・リーチなど「来沖した民芸運動家たち」のカラーズを環境グラフィックで表現。 ・所狭しと並べられた壺と買い求める人たちであふれ、壺屋焼が日常的に利用されていたことを示す「壺市場」の景観をミニジオラマで再現する。
	戦後復興と 現代の壺屋焼	いち早く窯に煙を立ちのぼらせ、日用食器、瓦などを焼いて、沖縄の戦後復興の第一歩を記した壺屋の町について語る。また、沖縄の陶芸界をリードし、新しい時代を開き、現代につながる陶芸三人展の時代についても紹介する。	・「戦後の復興に力を尽くす壺屋の人々」の生き生きとした表情を環境グラフィックに写し取る。 ・焦土の中で焼け残った壺屋の町を、ミニジオラマで象徴的に再現する。

ゾ ー ン	コ ー ナ ー	展 示 内 容	特 徴 と な る 展 示 展 開
生活の中の壺屋焼	暮らしの場と壺屋焼	沖縄の人たちの暮らしに密着した、生活の道具としての壺屋焼について、上焼、荒焼とも庶民の生活に数多く使用されていた昭和10年代を舞台に紹介する。同時に、日常の場と対比する形でハレの場で使用された壺屋焼についても紹介する。ここでは、沖縄の人々の生活を飾った各種の工芸品を「琉球の美」として捉え、これも情報として折り込んでいく。 また、壺屋焼を生み出した陶工たちの日常の生活や陶工たちが生きた当時の壺屋の町について、さらにスージーグワーネットワークについても紹介する。	・那覇の民家を、台所を中心として原寸再現し、日常使われていた壺屋焼の数々を置き、当時の日常の暮らしの場と壺屋焼の関係が直接把握できるよう環境構成する。 ・この環境構成の場を利用し、「ウチナンチュの一生と壺屋焼」として、人生のエポックを彩った壺屋焼について、実物に造形、映像、音響、照明効果を加えたストーリー性豊かな複合演出シアターを展開する。なお、琉球の美としての工芸品も交えたストーリー展開を試みる。 ・スージーグワーネットワークの紹介では、自由に持ち帰れるルートマップを用意し、町歩きに活用してもらう。
壺屋焼・その特徴	上焼	上焼の特徴、製法と工程について紹介する。 東ヌ窯をモデルとし、上焼に特徴的な連房式の登り窯の構造と焼成を紹介、製作過程を三段階に分けて製法、原材料、道具などについて解説する。	・東ヌ窯の断面模型と合わせ、コンピュータグラフィックスを使い、窯の内部構造、焼物の並べ方、焼成過程、火入れと火の回り方などについて、窯の内部からの視点、クローズアップ等、さまざまな視点からの映像を作成し、興味深く、分かりやすい解説を図る。 ・製法と工程の紹介では、各段階の焼物のサンプルと、使用する道具を組み合わせ、映像・グラフィック解説とともに示す。
	荒焼	荒焼の特徴、製法と工程について紹介する。 南ヌ窯をモデルとし、荒焼に特徴的な単房、トンネル式の登り窯の構造と焼成を紹介、製作過程を二段階に分けて製法、原材料、道具などについて解説する。	・南ヌ窯の断面模型と合わせ、コンピュータグラフィックスを使い、窯の内部構造、荒焼独特の焼物の並べ方、火入れの仕方等を紹介、火の回り方等についても、窯の内部からの視点、クローズアップ等、多様な視点での映像を作成し、興味深く、分かりやすい解説を図る。 ・製法と工程の紹介では、各段階の焼物のサンプルと、使用する道具を組み合わせ、映像・グラフィック解説とともに示す。
	特徴的な壺屋の技法	壺屋焼の特徴的な技法について、これらの技法に影響のあった海外の焼物の装飾、加工の技法などについても触れながら紹介する。	・それぞれの技法が特徴的に読み取れる実物中心の展示とし、優品の持つ美しさが十分生きるようなギャラリー的な展開とする。
	特徴的な壺屋の焼物	厨子甕、シーサー、抱瓶、カラカラなど、沖縄独自の焼物について、その特徴、由来などを紹介する。海外からの影響についてもふれる。	・それぞれ独自の特徴を有する、製品自体の持つ面白さが十分生きるよう、実物展示を中心としたギャラリー的な展開とする。

ゾ ー ン	コ ー ナ ー	項 目	展 示 内 容	原 形 態	展 示 処 理	展 示 形 式	備 考
焼物前史	焼物の源流 土器と類須恵器	—	名称	カタ文字	デジタル処理	ゾーンパネル	サイン機能を果たす
		—	焼物の源流土器と類須恵器	原稿・図版	デジタル処理	コーナーパネル	コーナーの概要を示す
		沖縄本島の土器	沖縄本島の土器—特色と変遷	原稿・図版	デジタル処理	解説パネル	
			貝塚時代 前期の土器	—	実物	ケース	
				土器	レプリカ	ステージ	触れられる展示用
			貝塚時代 後期の土器	—	実物	ケース	
		土器	レプリカ	ステージ	触れられる展示用		
		宮古、八重山諸島の土器	宮古、八重山諸島の土器—特色と変遷	原稿・図版	デジタル処理	解説パネル	
			宮古、八重山諸島の土器	—	実物	ケース	
				土器	レプリカ	ステージ	触れられる展示用
		バナリ焼	—	実物	ケース		
			バナリ焼	レプリカ	ステージ	触れられる展示用	
		窯で焼かれた最古の焼物 類須恵器	類須恵器—製法と特色	原稿・図版	デジタル処理	解説パネル	
			類須恵器	—	実物	ケース	
				類須恵器	レプリカ	ステージ	触れられる展示用
		亀焼古窯の発見 (亀焼古窯の概要と意義)	原稿・図版	デジタル処理	解説パネル		
		大交易時代と焼物	—	大交易時代と焼物	原稿・図版	デジタル処理	コーナーパネル
交易ルートの広がり と各国の焼物	琉球の対外貿易と輸入された陶磁器 中国との進貢貿易ルート 南方貿易ルート 対日貿易ルート 朝鮮貿易ルート		原稿・図版	デジタル処理	解説パネル		

ゾ ー ン	コ ー ナ ー	項 目	展 示 内 容	原 形 態	展 示 処 理	展 示 形 式	備 考	
甑屋焼の歴史	甑屋の始まりと 近世の甑屋焼	—	中国の青磁、白磁 南蛮がめ 等	—	実物	ケース		
		—	名称 甑屋焼の歴史(焼物前史含む) 日本の歴史 琉球の歴史	カタ文字 年表・図版	デジタル処理 デジタル処理	ゾーンパネル	サイン機能を果たす ビジュアル総合年表を含む	
		—	甑屋の始まりと近世の甑屋焼	原稿・図版	デジタル処理	コーナーパネル	コーナーの概要を示す。日本 琉球、甑屋焼比較年表含む	
		時代の風景①	冊封使船を迎える那覇港	図版	デジタル処理	環境グラフィック		
			時代の中の甑屋焼①	江戸上りと甑屋焼	調査資料	造形処理	ミニジオラマ	
		「江戸上りと甑屋焼」解説		原稿	デジタル処理	キャプションパネル		
		甑屋への統合	島内産茶振興と陶器生産 ・甑屋統合の背景を語る	原稿・図版	デジタル処理	解説パネル		
			統合された3つの窯 — 知花窯、宝口窯、初田窯 ・それぞれの特徴と影響	—	原稿・図版	デジタル処理	解説パネル	
				知花焼	—	実物	ケース	
				初田焼	—	実物		
		沖縄の古窯	甑屋統合窯以外の窯の概要 ・古窯分布地図	原稿・図版	デジタル処理	解説パネル		
			作場焼	—	実物	ケース		
			喜名焼	—	実物			
			古我知焼	—	実物			
		八重山焼	—	—	実物			
			—	—	実物			
			—	—	実物			
陶工たちの系譜	招かれた3人の朝鮮陶工・ 一六、一官、三官 ・沖縄最初の陶工—一六	原稿・図版	デジタル処理	解説パネル				